

自己点検・評価状況について

本研究所では、効率的且つ効果的な自己点検・評価を実施し、その評価結果を適切に運営改善に反映させるため、自己点検・評価委員会を設置している。また自己点検・評価を第三者評価に適切に関連づけるため、本研究所自ら外部評価委員会を設置している。

自己点検・評価委員会

本委員会では、管理運営、研究等について本研究所が自ら行う点検及び評価に関する基本的な考え方をまとめ、自己点検・評価を実施し、その結果の活用について検討・協議する。併せて、中期目標、中期計画及び年度計画の策定について検討する。

[開催状況]

平成21年10月から平成22年2月上旬までに5回開催し、21年度計画にかかる実施状況の確認及び現況の調査を行った。

これらの自己点検結果を本研究所外部評価委員会に提示して意見を求め、外部評価委員会からの評価結果を踏まえて、平成22年3月末までに3回自己点検・評価委員会を開催して再考し、業務実績報告書、現況調査票及び研究業績をまとめた。

外部評価委員会

本委員会では、本研究所がまとめた自己点検・評価について、所外の専門家の立場から検証する。外部評価委員は、次のとおりである。

[外部評価委員]

板橋 秀一 (国立情報学研究所特任教授、筑波大学名誉教授)

<専門：情報学・音声データベース>

久野 マリ子 (國學院大學文学部教授)

<専門：日本語学・方言学・音声学>

郡司 隆男 (神戸松蔭女子学院大学学長)

<専門：計算言語学・日本語学・知能情報学>

林 徹 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

<専門：一般言語学・トルコ語学>

廣瀬 正宜 (名古屋外国語大学外国語学部教授)

<専門：日本語教育学・言語学>

[開催状況]

自己点検・評価委員会が取りまとめた実施状況及び現況調査結果を検証していただくため、平成22年2月17日(水)に外部評価委員会を開催し、評価内容に関する説明を外部評価委員に行った。

外部評価委員からは、検証期間の後、本研究所の評価内容に対する非常に有益なコメントをいただいた。主なコメントは、次のとおりである。

〔主なコメント〕

- ・英語名称に Linguistics が加わったことから、COE 性をもっと強調してはどうか。
- ・消滅危機方言に関する研究については、成果の公開方法や研究者以外の利用対象を具体的に記載した方がよいのではないか。
- ・現代語及び歴史コーパスに関する成果については、一般の方々が理解しやすい記載にすることが望ましい。また、英語のコーパスはすでに大規模なものがあるが、日本ではまだ初期段階にあるので、本研究の学術的意義は極めて高い。国際的にも貢献する内容であることも付記してはどうか。
- ・国立国語研究所における日本語教育研究及びその成果は、帰国生徒・学生にとっても、また国外における外国語としての日本語教育研究においても重要である旨を強調した方がよいのではないか。
- ・病院などでの専門領域の言葉を分かりやすくする提案は意義深く、また時宜を得ている。日本の国際化にも結びつく。様々な分野の言葉を分かりやすくする提案を、今後も引き続き行っていただきたい。